

1953年にテレビが始まったということで産経新聞が“テレビ還暦”と題し、そのシリーズの一つとして手塚治虫の特集をしていた。神は時として天才を創造されるが、彼こそはその一人だといって過言ではあるまい。今や世界を席卷する日本アニメは彼が一人で造ったと言っても過言ではない。

阪大医学部出身で医師免許取得の彼は、もともと裕福な家庭で生まれ、戦前では珍しかった手回し映写機が自宅にあったにことにより、幼少の頃よりディズニーアニメやチャップリン喜劇を見て育ち、隣の家が宝塚歌劇団スター姉妹の家ということもありエンターテイメントの世界を早くから志していた。日本初となる「児童漫画でのキスシーン」や、「主人公の死」などの悲劇性の導入、4コマ漫画をひっくり返し右から左へ読むという「コマの変化」により現在の読み方を確立、日本初の連続テレビアニメ「鉄腕アトム」最高視聴率は40%超となった上、おもちゃなど関連商品が次々と発売され他社も相次いでテレビアニメに参入するきっかけとなった結果、ついには“アニメ”という産業を作り上げてしまった。

彼の弟子を含め彼に影響を受けた人々は、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、永井豪、ちばてつや、望月三起也、楳図かずお、藤子不二雄、松本零士、杉井ギサブロー、つのだじろう、宮崎駿など、まさに英雄百出の観がある。弟子の一人で「ガンダム」の作者、富野由悠季氏は「手塚先生の本性は漫画家でもアニメ制作者でもなく、物語作家。物語を伝えることに大きな興味があったからこそ、思いついた新しいことが多くある。」と言う。

さらに富野氏は現代アニメに対し、「人々がテレビアニメという媒体が抱える問題を疑わなくなった。“タコツボ”にはまってしまっている。物語をいかに作るかで勝負しないと。」と苦言を呈し、ネット社会に対しても、「人の平準化が進むだけでは。群衆は付和雷同する。群衆を一気にニュータイプにする方法が見つからないと、世の中は明るくならない気がする。」とも。言うなれば、没個性で旧態依然としたものではなく、創造性、革新性、コミュニケーション能力といったところか。なるほど、実は聖書には、キリストを信じて新しく歩み始めた人々に対し、

「あなたがたは、古い人をその行いと一緒に脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。」

新しい人は、造り主の形に似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」

コロサイ人への手紙 3章 10-11節

と励ましているが、実に良く似ている。キリストを受け入れた人は罪が赦されて清くなり、神が送ってくださる聖霊を受けるが、それによって神の知識を得て創造性が増した結果、それまで不可能だったことが可能になるだけでなく、ますます新しく力をつけるのである。が、それはまず初めに、我々一人ひとりの罪の悔い改めを伴うものであり、何も努力しないでよいのはでない。まず創造主であり、救い主であるキリストに立ち帰って救いを得ることが肝要だ。キリストが送って下さる聖霊によって創造性を豊かに発揮し、それぞれが、平準化ではない個性的な物語を奏でよう。それが神によるニュータイプ人間だ。

2013-7-24



